兵庫県立津名高等学校
同窓会阪神支部報

第15号
発行所
大阪市北区西天満4-6-3
ヴェール中之島北901号
薄木総合法律事務所内
津名高校同窓会阪神支部
TEL(06)6365-5512
FAX(06)6365-8241
印刷所：共栄印刷株式会社
TEL(078)341-0316

支部長退任の挨拶

同窓会会長
薄木昌信
（高校七回生）

阪神支部の会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、同窓会への御支援御協力を頂き、感謝いたしております。

さて、私は、平成一四年八月二五日に開催された支部総会において、阪神支部支部長に選任され、その後平成二〇年八月二四日に開催された本部総会において、会長に選任され、それ以来二年間にわたり会長と支部長を兼任して参りましたが、本年八月二九日開催予定の支部総会において支部長を退任させて頂き、今後は会長としての任務に専念することになりました。阪神支部支部長としての八年間の間、会員の皆様はじめ関係者の方に大変お世話になりましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

思えば、阪神支部が結成されたのは昭和四七年七月二三日です。当時の同窓会長であった三津啓祐氏（高校三回生）と、同期の筆谷正氏の二人の先輩が中心となって結成され、今年で三七周年を迎えます。この三七年間の間の阪神支部の活動内容を振り返って見ますと、私としましては、良くぞここまで活動してこれたと思っています。これも、会員の皆さんの御支援御協力の賜物であると思っています。今後は、八月二九日の支部総会で選任される新支部長の下で、支部会員の皆様の御協力を頂いて、同窓会・阪神支部共にその活動が活発化されることと、母校津名高校の益々の発展を祈念しています。

なお、最後に私と同期の高校七回生の皆さんに改めて一言お礼の言葉を申し上げます。

私が阪神支部の副支部長の時代から現在に至るまで、同期の皆さんには、格別の御協力を頂きました。特に、毎年発行している支部報につきましては、過去一四年間という長期間にわたり、いつも四〇名乃至四五名の皆さんから、会費以外に賛助広告費として多額の御寄付を頂きました。これは、私と私の同期で阪神支部報の編集委員長であった宮岡郁雄君、同委員の矢野端君、同南光三雄君が中心となって、同期の皆さんに「皆さんからの寄付金がないと支部報が発行できない」と、懇願していたことに対し、いつも寄付を頂いていたものです。私はその都度、同期の皆さんの心暖まる友情と御好意に対し、ひたすら感謝の念と、同期の皆さんに経済的負担をおかけすることに対する心苦しさを感じていました。

そして、同窓会の会合と同期会の席上においても、いつも同期の皆さんから心暖まる激励の言葉をかけて頂き、その都度嬉しく思い感激しておりました。

今回、私が支部長を退任するに際し、特にこの紙面をおかりして、同期の皆さんにお礼の言葉を述べ、私の支部長退任の挨拶といたします。

長い間、本当にありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。

支部長代行としてのあいさつ

阪神支部支部長代行
小久保澄夫
（高校十三回生）

暑い夏がやって来ました。阪神支部の皆様にはお変わりございませんか。

さて、平成20年度支部総会で支部長代行の選任を受けまして早くも2年が過ぎました。皆様の御協力を得て、微力ながら運営発展のため役目を果たしているところです。

母校津名高校は今年創立90周年を迎え、10月10日に記念式典が予定されています。（詳しくは別項案内をご参照下さい）このための寄付を昨年より皆様方にお願いしております。すでにご寄付を頂いた皆様には心より感謝いたします。目標の額には少々不足しており、引き続き寄付の受付を行っております。どうぞ御協力下さいます様宜しくお願い申し上げます。

当支部は、昭和47年7月に創立総会を開いて以来今年で37年目を迎えます。初代支部長の筆谷先輩（3回生）、2代目の立花先輩（5回生）に運営の基礎を確立していただき、三代目支部長の本田先輩（6回生）の時代に支部活動の一層の飛躍を願って支部報発行に漕ぎ着けました。約4,000名の会員の皆様にお届けしている本報も、今号で15号目という節目を迎えます。毎年の支部報の発行と隔年で開催される総会が大きな行事であり、会員相互の交流を図る手段となっております。ここ数年は薄木支部長のもと、組織もしっかりとして来ております。ただ、世間の動きと同じように、同窓会の組織も逆ピラミッド型になり、世代間のスムーズな交代が難しくなってきています。これからは卒年次の若い方々に声をかけ、仲間を増やし皆で支部発展を図っていきたいと考えています。どうぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。皆様方にはお身体に充分お気をつけてお過ごしください。

90周年記念式典に向かって

兵庫県立津名高等学校長
不動亨

暑中お見舞い申し上げます。阪神支部同窓会の皆様、平素は母校にご支援、ご助力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年度は、新型インフルエンザ・高校入試の採点ミス対策のダブルパンチで神経をすり減らしましたが、本年度は比較的スムーズに推移しています。

さて、本校は、北淡路地域の少子化の影響を受け、現在生徒数は、五百九十余名に至っています。地域の実情から、児童・生徒数はこれからも減り続けることが確実です。また、明石海峡大橋が開通して以来12年が経過し、流通面で大きな変化があります。このような状況の中で、本校が置かれている状況を認識し、魅力ある学校づくりに努めて参ります。地域にとってかけがえのない学校、生徒達が学んでよかったと実感できるよう、きめ細かく取り組んでまいります。

そこで、本年度から、インスパイアーハイスクール事業（魅力あるひょうごの高校づくり）の指定校に選ばれ、中高連携・高大連携・地域連携重点指定及び理数教育等学力向上重点指定に鋭意取り組んでいます。学校活性化の起爆剤にしたいと意気込んでいます。

部活動では、ギターマンドリン部が31年連続で全国大会に出場します。どの部も、全国大会・近畿大会出場を目指して、日々励んでいます。文武両道を貫く強い意志をもって臨んで欲しいと思います。

さて、いよいよ来る10月10日は、90周年記念式典です。記念すべき「100周年」への礎石としたいと考えています。現在校内において各部会で、細部にわたり打ち合わせを行っています。生徒達も、記念公演としてのNHK交響楽団のプロの演奏を心待ちにしています。入場に限りがありますが、できるだけ多くの同窓生のご参加をいただき、交流の場としていただければと考えています。

また、この機会に現校舎もご覧ください。校舎移転後6年目を迎え、校木の「しい」、校花の「バラ」、藤棚に咲き競う「藤」、坂道の「桜並木」も繁ってまいりました。大阪湾と校舎のハーモニーもご覧ください。

それでは、お会いできる機会を鶴首して待っております。今後とも母校にエールを頂きますようお願いいたします。

阪神支部総会のご案内

会　場　ホテル神戸東急イン Tel：078－291－0109
ＪＲ三宮駅南東３分

日　時　平成22年８月29日（日）
午前10時00分（受付）10時30分総会

会　費　7,000円（57回～61回までは半額）
終了後　懇親会

二年に一度の故郷の便りを求めて、みなさまお誘いあわせて、ご出席ください。

なお出席の方は添付のはがきにて申込お願いします。

（締切は８月10日です。）

懐かしい笑顔と過ごす
かけがえのない時間

再び出会えた喜びを分かち合う大切なひとときのために･･･。
優雅な空間演出、旬の味わいあふれるお料理、上質のおもてなし。
いつまでも心に残る思い出をウェスティンホテル淡路で。

ご宴会プランお1人様6,000円から承ります。
※お得なフリードリンクプランもご用意しております。

THE WESTIN
RESORT & CONFERENCE CENTER
AWAJI ISLAND
JAPAN

ウェスティンホテル淡路
〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台2番地　TEL 0799-74-1111(代表) FAX 0799-74-1100 http://www.westin-awaji.com

薄木総合法律事務所

弁護士　薄木昌信（高七回生）
弁護士　薄木英二郎
弁護士　薄木史

事務所　〒530-0047 大阪市北区西天満四丁目六番三号
ヴェール中之島北九〇一号
（大阪地方裁判所北門前）
TEL　大阪　〇六（六三六五）五五一一番
五五一一三番
FAX　大阪　〇六（六三六五）八二四一番

地形図に見る「津名高校」

旧職員
徳田　泰治
（昭和36～40年　在職）

父は魚釣りが好きだった。夏は鮎の毛針釣りや友釣りに各地に出かけた。木曽川とか長良川の川の名前をよく覚えている。春と秋は磯釣りに精を出し、月刊誌「釣の友」に記事を書いていた。海釣りのフィールドは明石の林崎と江井ヶ島、それと淡路島であった。一番電車に乗り明石の魚の棚で餌のエビを買い、播淡汽船に乗り込み岩屋に着きバスに乗り、西浦は富島・育波・室津・郡家・江井、東浦は岩屋・仮屋でのチヌ釣りによく連れて行ってもらった。

その当時使っていた地図がある。図1の地形図「志筑」である。昭和3年（1928年）測図、昭和23年（1948年）7月30日発行の25000分の一の地形図である。発行者は「地理調査所」。定価35円也。

それを見ると東浦と西浦を結ぶ交通の要所として「志筑」の街。岩屋から洲本に抜ける四国街道、西浦の尾崎に抜ける山沿いの道、東西に走る郡家への道、その交点が志筑である。海岸には千鳥が遊ぶ砂浜が広がっているが、沖に本船が寄港する「停船所」がある。役場は街中にあり、お寺には大きな潤葉樹が聳えている。また、街の南にも独立の針葉樹があるる。小学校は記載されているが、新制高等学校の発足は昭和24年なので津名高校は表示されていない。郡家・尾崎への旧街道は正木の砂糖屋さん、橋本のテント屋さんの前を通っており、小学校の前には計画的な道路ができ新しい商店街が作られている。

10余年後、昭和36年（1961年）4月津名高校に着任したときの志筑の街。志筑バスターミナルは現在の志筑中央の交差点にあり、中橋周辺は整備され神戸銀行、「すみ孫」という大きな書店、おしゃれな洋品店が店を並べていた。しかし商店街の中心は、映画館「三島座」、「だんじりや」さん、「樽井の写真屋」さんの周辺であった。ちなみに銭湯は13軒ほどあり、半分づつ交代に隔日営業していた。津名高校には田役場を移築したという2階の回廊つきの図書館があり、体育館では瀬先生が民謡を教えていた。牛市場もたち活気に溢れていた。

図2は昭和3年測図、昭和45年（1970年）改測、昭和46年7月30日発行（2色刷）の25000分の一の地形図「志筑」である。発行者は「国土地理院」。

津名港が整備されている。（津名高校16回生は船を一隻チャーターして友が島に遠足に行った。私が生活していた頃は沖の一文字はなく、港の南側の埋め立て地もなく、まだ砂浜が広がっており、そこで江井の水泳訓練参加者の水泳不能者検定が行われていた。）

岩屋から洲本に抜ける国道28号線が広くなり海岸線を走り、郡家への道路は志筑の街の南を走るバイパスが完成している。その交点に志筑バスターミナルが移っている。郵便局も役場も移っている。津名高校の日型の鉄筋校舎も完成しており、グランドからは藤本先生の声が聞こえる。津名中学も現在地にある。新池の周りには果樹園（みかん畑）が広がっている。高度経済成長期の余波か佐野、生穂、塩田の港も整備されている。

最期に阪神淡路大震災後・神戸淡路鳴門自動車道開通後の今から10年前の様子を地形図で見ておこう。

図3は昭和45年改測、平成9年修正測量（使用した空中写真は平成8年3月撮影）

平成10年（1998年）4月5日発行（3色刷）の25000分の一の地形図「志筑」である。

海岸部が埋め立てられ、佐野新島、生穂新島、志筑新島、塩田新島が続き、臨海工業地帯に変貌しようとしている。（淡路島の人たちの生活を考えない金融資本家達によって、この地に鉱物集散備蓄基地ができていると志筑の街は粉塵の街となり故郷は死滅していたに違いない。）津名一宮インターから生穂新島に自動車道が走り、港には関西国際空港を結ぶ高速船やフェリー乗り場ができ、淡路交通のターミナルもこちらに移った。阪神間からバスで津名高校に行くにはタクシーを呼ばなければならなくなった。津名高校の第2運動場が整地され、津名ハイツ、津名高校の体育館も表記されている。

現在私は神戸駅前のクリスタルビルで、「地形図から読み取る郷土の歴史」という市民講座を開いている。知的好奇心を失わないように、地形図を読みながら、歴史と文化を考える市民講座である。「戦後半世紀を過ぎ、21世紀となり、私たちの生活は本当に豊かになったのか？」「文化的に将来の不安なしに生きていけるようになったのか？」「開発は島民の生活を豊かにしたのか？」ということを視点に据えたいと思っている。

1960年代、淡路島の子供達は多くのハンデイキャップをもっていた。学校にはプールはなく、バスは海岸線沿いにしか走っていない。交通手段は自転車だが山の起伏は激しく道も細い。男の子は池で泳ぐが、女の子には危険である。津名高校の水泳部は「新池」で泳いでいた。泳げないということは生死に関わることであった。

江井の水泳訓練合宿は自分たちの生活を自分達でするというものであった。米や野菜を自宅から持ち寄り、江井小学校の家庭科室で岩崎・和田・志智先生の指導のもとに自炊した。私はここで生まれて初めて、御飯と玉子とスイカとトマトを毎日毎日食べることができた。それまで、玉子は病気にならないと食べることができない物だった。ほとんどの卒業生が島外に出て行かなければならず、経済的には苦しかったが、両親は子供達に精一杯の愛情を注ぎ、心は豊かであった。

私が津名高校を離れてから40年が経つ。津名高校の卒業生の生活は豊かになったのだろうか。90年の歴史を持つ津名高校の同窓会に出席すると、時間の皺を刻み、人生の重みを持った、にこやかな姿に出会えるが、そこには様々な人生模様が綴られている。

生穂第2小学校等が閉校となるニュースを聞き、淡路島の北部の山間部の生活の厳しさ史を担当していた者と思いをはせる。世界史を担当していたならば、“人との出会いを大切に”という言葉です。少年達に話した三つの言葉は、私の押しつけではなく、きっと実感として受け止めてくれたのではないだろうか…と。

私は母の言葉を、私から子供達へ、子供達から孫へ、そしてずうっと先迄も受け継いでほしい、そうしたいと願っています。

青少年補導委員から保護司へと、長い間、青少年健全育成団体の片隅に席をおかせて頂きました。何が私を…と考える時、見て見ぬ振りの出来ない性格と、人様よりちょっとだけ大きい心臓か？勇気、だったのかもしれません。そういう意味において、ずっと主人に心配をかけ乍ら、又、助けてもらい乍ら来たな？…という気がしています。本当に主人に有りがとうです。

でも主人にひと言、言わしてもらいます。『そんな言い方してもええのか、お前、保護司やろ！もうちょっとした言い方あるやろう！』と言われた言葉を…忘れません。

保護司と夫婦げんかは別ですよねェ！

でも、ちょっと考えさせられました。

淡路保護区保護司会会報
平成二十二年三月発行
第十一号より、転載させて頂きました。

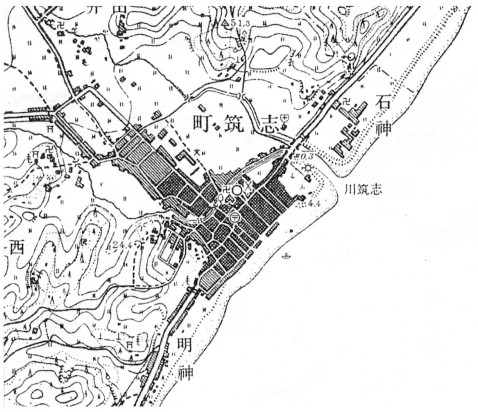


図1　地形図「志筑」昭和3年（1928年）測図、昭和23年（1948年）発行

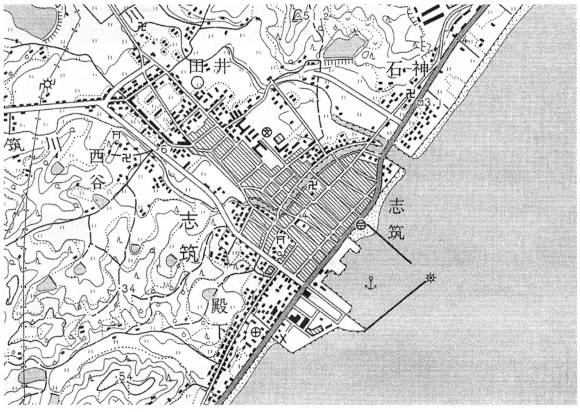


図2　地形図「志筑」昭和45年（1970年）改測、昭和46年（1971年）発行（2色）

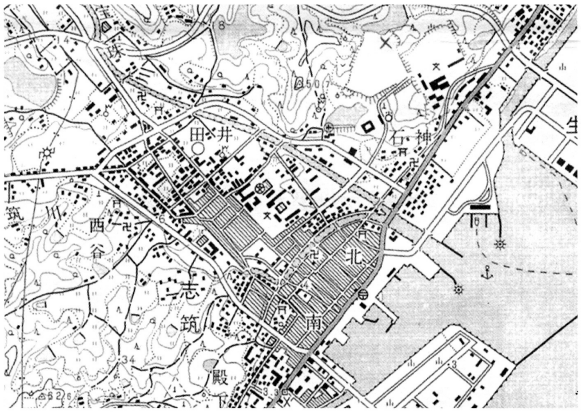


図3　地形図「志筑」平成9年（1997年）修正測量、平成10年（1998年）発行（3色刷）

わたしの好きな言葉
保護司の一員として

泉　咲子
（高校十三回生）

平成二十年の春頃、夫婦でする自営の仕事が忙しくなり、保護司活動に参加するのも困難になって来ました。退任しようと考えておりましたが、一人の少年を受け持っておりましたので再度更新しました。その後間もなく少年は解除となりました。が、私が不慮の事故に遭ったのをきっかけに保護司活動が私の頭の中から消えようとしていました。

思い出すのもいや、というか、怖いというのか、もうだめだとさえ考えた時もありました。仕事の途中、本人（成人）や家族が入って来たり、派出所に呼ばれたり、朝早くから、夜遅く、十二時から一時迄もの往訪だったり、来訪だったりで、勝手口の“ピンポーン”の音にビクビクさせられる日々を送った事もありました。

さて、話は変わりますが、私事で申し訳ありません。私の長男が、高校卒業の前、日本の大学を合格しながらも自分の夢を追いかけて、米国の大学に留学したいと言い出し、私達夫婦を決断させた言葉がありました。私の母が孫である長男に『若い時、楽な道と厳しい道に迷った時、厳しい道を選べば絶対に後悔はない』と言ったそうで、日本人のいない米国の大学行きを決めさせられたのでした。

その後、留学中に来る手紙には、いつも十八才は武器である。十八才で来て良かった。二十才では遅い、留学を許してくれて有りがとう、と書かれておりました。一つの目標の為に、長い暗いトンネルの中、小さい一点の光を見つめてがんばる事、それは十八才だから出来る事であると。もう一つは、“苦しい時こそ道は開けるんだ”という言葉でした。ことん苦しみ、どん底に落ち、そこでがんばらなければ道は開かれない、がんばっていればおのずと道は開けて行くものである。と、息子から学んだのです。息子にとってトンネルからぬけ出た時、それは本当に明るく輝いたに違いありません。

私は少年達との対話にその二つの言葉を、随分と使いました。もう一つを加えるとすれば、さらに眼を広げ、世界の覇権国家アメリカ合衆国とローマ帝国との関連性等についても考える。

（注）図3の右上×印が現在の津名高校です。

弔辞

―前同窓会長小久保正雄氏の御逝去を悼む―

同窓会長　薄木昌信（高校七回生）

本年六月一日に、阪神支部副支部長兼支部報編集委員長田中種義氏から私の事務所に電話があり、「小久保正雄さんが本日逝去された」旨の知らせを受けました。

前同窓会長の小久保正雄氏の突然の訃報に接し、私は、余りにも早や過ぎた知らせに、悲しみと共に茫然自失の念を抱かざるを得ませんでした。

小久保さんは、中学生の頃から将来は政治家になることを志し、津名高校を卒業後、上京して苦学力行のうえ、合格することが難関中の最たる名門早稲田大学政経学部に入学し、専ら政治学を専攻し、卒業後に英国に渡り、BBC放送日本語部に勤務しつつ、名門ロンドン大学政治学部に留学されました。

帰国後、昭和四六年四月から平成六年九月まで連続六期にわたり兵庫県議会議員に選出され、その間に第八九代兵庫県議会副議長に就任されました。この二四年間もの間、小久保さんは、兵庫県議会議員として輝かしい議員活動をされると共に、母校津名高校の新校舎建設につき、早くから各方面に働きかけておられました。その結果、平成一七年四月に新校舎が完成しましたが、この成果は小久保さんが県議会議員時代に布石されていたからこそ達成できたものであります。

小久保さんは、県議会議員として活躍された後、平成六年一〇月から平成一四年一〇月まで八年間にわたり北淡町長に就任され、専ら郷里の発展のため活躍され、その間平成七年一月一七日に発生した阪神淡路大震災の際には、最高責任者として震災地の復興作業に没頭され大変な苦労をされました。そして、大震災の原状と復興の経緯を後世に残すべきであるという固い信念と熱意をもって、北淡震災記念公園（野島断層保存館）を設立され、「国指定天然記念物野島断層」を残されました。

北淡町長退任後、小久保さんは平成八年九月から平成二〇年八月までの一二年間の長きにわたり、母校津名高校の同窓会長を歴任されました。その間の小久保さんの同窓会長としての活躍ぶりは、常に母校愛に燃えていました。とりわけ、三〇年来の念願であった同窓会館建設に向けて、三津啓祐同窓会館建設事業実行委員長と共に、何んとしても同窓会館を建設したい、という熱意でもって尽力され、新校舎が完成した二年後に、やっと同窓会館「エンジ会館」が完成しました。これも小久保さんの功績の賜物である、と言っても過言ではありません。

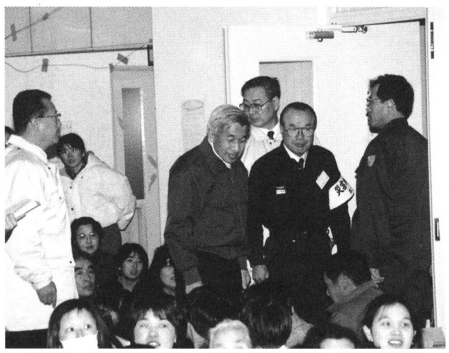
思い出しますと、小久保さんが同窓会長に就任されてから約三年経過した頃に、同窓会本部、支部役員の一泊二日の研修旅行がありました。その宿泊先で私は当時の小久保会長と同部屋になり、宴会終了後も二人で夜遅くまでお酒を飲みかわしながら親しく語り合う機会がありました。話の内容は専ら津名高校と同窓会の案件で、その時に小久保さんが話された要旨は、「同窓会の運営ほど難しいものはない、多くの会員の意見を聞いて、それを実行するとなると一体何をして良いのか、大変難しいし、いざ何かするとなると郵便代とか費用が大変で活動内容を実行するのに大変苦労をする。俺も三津先輩に口説かれて同窓会長を引き受けたからには、これからの残された余生を母校と同窓会の発展のため尽したいと思っている。同窓会館だけは三津先輩の悲願でもあるので俺の任期中に何んとしても完成させたい、完成しなかったら三津先輩にどやされる、君もひとつ俺と一緒になって母校の発展のため頑張ってくれ」と熱っぽく語っていました。

また、小久保さんが健康上の理由から会長を退任される約六ヶ月前に、突然私の事務所に電話があり、「近いうちに淡路に来る機会がないか、ついては一緒に会事をしながら同窓会のことで是非相談したいことがある」とのことでしたので、後日志筑の割烹店に出向いたところ、同窓会副会長の川端敦子さんが同席され、そこで小久保さんから「健康上の理由で今期で会長を退任したい、ついては後任に君に会長になってほしいので、よろしく頼む、引き受けてくれ」と全く予想もしていなかったことを言われました。これに対し私は、「これまで同窓会長は、淡路在住の方が就任されていた。私は吹田市在住なので、仮にお引受けしても御迷惑をおかけすることになるかも知れないし、現在私は阪神支部の支部長を引受けており、支部長としての責任もあるので、阪神支部の方に専念させてほしい」と固辞させて頂きました。その頃に、同窓会顧問の三津先輩からも、「小久保のあと君が会長を引受けてくれ」と言われましたが、同じ理由で辞退しておりました。しかし、その後も小久保さんから私の事務所に二回電話があり、「このままでは安心して退任できない。私を助けると思って、何んとか会長に就任してほしい。頼む」とまで言われ、私としても熟慮し、阪神支部の役員会で皆さんの意見をお聞きしたところ、「就任を可とする」意見を頂き、阪神支部支部長代行として小久保さんの実弟の小久保澄夫氏（高校二三回生）が引受けて下さり、その後本部役員会において役員の方の意見をお聞きしたところ、阪神支部役員会と同じ意見でしたので、私が小久保さんの後任として平成二〇年八月に同窓会長に就任いたしました。

また、小久保さんは、同窓会長に就任してから学校側に対し、「卒業式に同窓会長が出席して頂けるものと思っていました。

それなのに、今回の訃報に接し、誠に残念でなりません。小久保さんは、愛する五人のお孫さんにも恵まれ、これからの余生をお孫さんらと共にゆっくりと楽しんで頂けると思っていましたのに、本当に言葉で言い尽せぬ程残念です。

私は、同窓会を代表して、前同窓会長小久保正雄氏の残された数々での御尽力に満腔の敬意と心からの感謝の念を捧げ、「どうか安らかにお眠り下さい」と、謹しんで小久保さんのご冥福をお祈り申し上げると共に、私も小久保さんと同様に郷里淡路島と母校津名高校の発展のために、全力を尽して寄与していくことを誓って、私のお別れの言葉とさせて頂きます。小久保さん、長い間本当にありがとうございました。合掌



避難所へ天皇陛下をご案内　阪神・淡路大震災―旧北淡町長時

厨房室から

石田きさ代（高校十三回生）

兵庫県中央子供家庭センター、自治体によって名称は少し異なりますが、いわゆる虐待を受けた子供を保護し、一時的に預かる施設です。私が調理員として勤務しているこの施設では二才から中学生まで三、四十名が生活しています。その間に受け入れの整った家庭に戻るか、児童保護施設、あるいは児童自立支援施設等に行き先が決まり退所して行き、替わりにまた新たに入所して来るのです。ここに保護されている子供たちは外部との接触もなく（学校へも通っていません）男女、幼児、児童以上と分けているものの団体生活の為、かなり窮屈な生活を余儀なくされています。

そうした中で子供たちの楽しみは何と云っても三度の食事です。県からの限られた予算枠で栄養士が苦心の献立を考え、材料を購入し、私たち調理員が腕を振って子供たちが喜ぶ料理を作ります。毎日三度の食事はもとより季節の行事に合わせた特別料理も人気があります。「おばちゃん、おいしかったー」そう云ってくれると増々料理作りに力が入ります。

私がこの施設で仕事をはじめた時から気になることがあります。ここでは二才から六才までの就学前の幼児が常に十人近くいます。食堂では母親代わりの指導員が幼児たちの食事の世話をしているのですが、食事中に居眠りをする子、ごはんを上手に食べられなくて床にこぼす子、急に泣き出す子、尿意を訴える子、とてもにぎやかです。みんな無邪気で、純真でそれてしまうない子たちばかりです。思わずぎゅっと抱き締めたい気持に駆られます。この幼児たちが私の作った料理を食べてくれている、うれしいけれど何か複雑な気持ちになります。私たちがどんなに心をこめて作った料理より、手抜きでもいい、母親が作って母親の手で食べさせてくれる料理のほうがはるかにおいしいに違いありません。

両親はどうして子育てを放棄したのでしょう。私たちが子育てをした頃とは比較にならない程世の中も多様化し、生活も人間関係も煩雑になってきていますが、親が子に対する愛情は変わらないと思うのです。母親として幼な子と離れて暮らすことなど考えてもみなかったことが今、目の前で現実として見えているのです。

この施設で一時期を過ごさねばならなかったことがこの子たちが成長していく上での弊害にならないように、この経験を礎としてりっぱな成人になってほしい。そう願いながら厨房室から子供たちを見守っています。

淡路島でつくる日本のお線香
宝と花琳
株式会社　薫寿堂
代表取締役　福永　稔（高八回生）
本社〒656-1152　兵庫県淡路市多賀一二五五一一
TEL〇七九八（八五）三〇（代）FAX〇七九八（八五）三六二

宮岡郁雄（高七回生）
〒673-0851　明石市朝霧北町一一一五―五
TEL〇七八―九一四―〇四二七

高校五回生有志
立花和也
江本嘉代子
河合春子
尾﨑田鶴子（高六回生）
〒566-0001　摂津市千里丘四―十三―二七
TEL〇六―六三八九―四〇七〇

オキ労務経営事務所
社会保険労務士　沖正典（高九回生）
〒655-0017　神戸市垂水区上高丸一丁目一二―四〇五
TEL／FAX〇七八―七〇八―三六六一

柴生進（高十回生）
〒666-0013　兵庫県川西市美園町7―4
TEL（〇七二）七五五―〇〇八八

津名いちさん会（ゴルフ同好会）
高校十三回卒
石上勝美　上宮峯男　木村稔　柴谷英一　高田英憲　福本昌司　藤本勝　松本英志　山本幸平
五熊詔一　奥村徹二（旧姓新居）　柏谷邦江（旧姓瀬合）　曽山栄　中来田吉紀　藤田克己　堀和明　水野哲男　藁田昭代（旧姓柿原）
※五十音順

淡路西浦の漁情報

丸一芳訓（高校二十回生）

阪神間にお住いの皆様方に、旧北淡町より西浦漁師情報を届けます。私は育波生、昭和四十四年卒第二十回生です。皆様は淡路を離れて久しく、西浦と聞くのも懐しい事と思います。そこで母校ホールで、ウドンを食った仲間の一人として、話しをさせていただければ幸いです。さて、真夏、夕日が播磨灘に沈むころ、帰港する船影は絵になり、癒しの世界です。が、

西浦の冬景色

一転して西高東低の気圧配置が続く冬には、海は大時化、北西の風が吹き荒れ、道路にまで潮が上がるのです。そんな両面を持ち合わせるのが西浦です。浦というのは、海岸の湾曲した所という意味と聞いています。そこに漁師が港を作り、魚の販売所をもうけて拠点としたのが今の漁協でしょう。古くは漁業組合を販売所と呼んでいましたですから、西浦の漁協名は〇〇浦漁業協同組合と言う風に、浦が付いています。そして、昔から、漁師の子は漁師、色が黒くて、しわ深く、手が大きくて声も大きい、さらには柄が悪いと相場が決まっていたものだったし「我ら漁師や岡方と違う」が口癖でした。その言葉には、「板子一枚下地獄、命を張っとるんや、自由人や」という意味が含まれているのでしょう。

漁師のオキテ

が海の上の漁師の実態は、法律、取決め、約束事が数多く有り、存外縛りが多いのです。例えば、組合員に成るには一定の条件を満たさなければなりません。これは各組合の定款に基づきます。また単に漁船と言っても、漁種用途によって大きさが違いますし、エンジンも同様に馬力制限を受けます。それ等を網羅して初めて、操業許可が出ます。知事許可です。海面を使用して操業しますので海上でも制約があり、西浦の海（播磨灘）を区分し、組合ごとに許可証により操業海域が決られています。かつ、操業の期間、時間帯も決られているのです。航行や操業方法にも決まりがあります。播磨灘は海の銀座、漁船から、超大型船が昼夜を問わず行きかっています。座礁、衝突など事故が多いのです。そこで海上にブイ（浮標）を設けて、神戸方面は南側、下関方面は北側を通行（右側通行）が定められています。船は大小を問わず、船首に向かって右側（面舵）青、左側（取舵）赤の航海灯を設置し、夜間でも進行方向がわかる様になっています。漁船は、「漁労中」の意味の黒球を掲げます。最も守らなければならないのは、「組合間の約束事」です。何故かと言えば、操業面が主な事項ですから、直接利害対立となり、海上トラブルに発展するからです。古くから、のものもあれば、新規のものまで、組合員全員に周知徹底されます。今でも急を要する事柄は、村全体にマイク放送がなされます。違反者は、その日の水揚げが没収されることもあります。

「約束事」は、狭い海域をお互いが有効利用し、生業を継続させる先人の知恵なのです。ですから、仲間で罰則をもうけ、遵守するのです。

これらは人間の決めたものですが、漁師密度が高くても、なんとか生活が出来てこられたのは、なんと言っても、播磨灘は日本でも有数の好漁場であったからです。潮の流れが速く、鹿ノ瀬、室津の瀬に代表される浅瀬があり、魚の餌になるイカナゴが生存する環境が整っていたからです。漁師にとってまず「有き」は好漁場です。播磨灘の潮は、東西に流れ東から西に流れるのは満潮、逆は干潮で、明石海峡では最大五～六ノットです。時間帯や月齢によって潮の流れが変りますから、漁師は月を見たり、旧暦を使って潮を判断し魚を獲るのです。魚は潮で獲るのです。ところが代々守り続けてきた播磨灘も、近年日本水産界が抱えるのと同様の現象に直面しています。それは、環境の悪化、資源枯渇、後継者不足と高齢化、魚価安、魚離れ、などです。

海苔の養殖

この様な問題を抱えた西浦の漁業は合併組合も有って現在は、六組合で約六百人ほどの構成人員になりました。主たる漁種は、底引船曳、海苔養殖です。冬の風物詩、県下主幹産業と言われるのが、海苔養殖です。西浦でも盛んで、秋十月「種付け」が行なわれ、育苗期を経て、十二月初旬生産態勢に入り、四月下旬漁期が終る長帳場です。海苔に関しては、東浦の森漁協が先駆者で、昭和四十年ごろ回転式イカダの発明により、海苔産業発展の礎を築いたと聞いています。西浦海苔養殖発展の裏には、厳しい自然環境が有ったのです。「西浦の冬枯れ」北西の風が吹き荒れる西浦では沖に出れまえない。くは、西宮の酒屋に出稼として、後には土方として働きました。冬でも仕事が出来る、しかも銭になる、

時には過労死も

海苔養殖はまたたく間に拡がりました。が、不眠不休、海苔作りはまさに生命と引き換の仕事でした。漁期終了時には、入院、過労死の話しも聞くくらいでした。実入りも多く、秤りにかけると「一千万円の束は一kg」と景気のいい話しもあり、一時期の西浦漁業の生命線だったことも事実です。今は色落ち、病気、中国韓国からの輸入と、気の休まることはありません。

兵庫ののりは、一八〇億円前後の水揚が続きましたが近年、一五〇億円を切る状態です。佐賀県を抜き、日本一の県になった事もあったのですが。西浦産は主に業務用として、コンビニの「おにぎり」に使用されています。味が有るのですが、仕上りが堅いのです。これも北西の風によるものです。ちなみに中国人の食べる「おにぎり」には、米に張り付いた海苔が好まれるそうです。

イカナゴの釘煮

春を告げるのは、イカナゴ漁です。明石海峡での漁模様は、カモメが飛びかい風物詩になっていて、イカナゴはシンコと呼ばれて、阪神間でおなじみの「釘煮」の原材です。二月末に大阪湾と播磨灘が一斉に解禁となります。その日の午前中にスーパーや魚屋の店頭に並び、市民の方々の行列が出来る日々が続きます。この漁法は育波が元祖と認識をしています。二隻の船が網を引き、運搬船が漁場と港をピストン運航します。約一ヶ月間の短い漁期ですが、漁師にとっては書入れ時です。段々と成長するイカナゴを追って四月～五月末にかけて漁をします。大きくなったイカナゴは、養殖魚の餌になります。イカナゴ漁期中には、鯛、鱸、烏賊、人の食べる「おにぎり」には、米に張り付いた海苔が好まれるそうです。

丸一さんの漁船　幸丸の前にて

金比羅詣で

休漁期間は、船の手入れや金比羅参りとゆっくりとした時を過ごします。金比羅様は漁師の神様、漁師は信心深いのです。家には天照大神、八幡さん、戎さん、沢山の神様を祭ってあります。一年を通じて儀式も多くあり、一月二日は初めて船にのる「乗りぞめ」、十日は西宮戎参りと又一生に一度は大峰山に登ります。

チリメンは、カタクチイワシの稚魚で、チイカになりカエリになり大きさで呼び名が違います。チリメン漁は、二～三センチの魚を獲るのに、五尺目の網を使ったり、クラゲ、大きな魚を寄り分けたり出来る仕掛けがあり「おかず」としては、太刀魚、鰺、烏賊、河豚が揚ります。以上が大雑把な西浦の漁師村の話しです。

日本の食を守る

総じて日本の水産界の主たる使命は、国民の皆様方に、安全で、安心して食べていただくおいしい水産物（タンパク源）の供給にあり、日本の台所を預かる事を自負しています。となる訳ですが、しかし、現実に、そんな事を考えて毎日毎日、海の上で仕事をする漁師はおりません。魚を見付けしだい親の敵の様に魚を獲るのが漁師なのです。そして、漁師の最大の使命は、隣の「おっさん」より、少しでも多くの魚を獲る事なのです。隣の「おっさん」に負けない様に腕や道具を磨くのです。何んでや、「かあちゃん」が恐しいからなのです。隣より漁が悪いと、楽しみの晩酌は減るし、肴の刺身が悪いし、おまけに、「どないしょったん、とうちゃん、明日は頑張ってよ」と小言の一つも出るのです。

隣より大漁の時は、黙っていても、酒と上等の肴が出てくるのです。「明日もたのむわ。」漁師には言訳がきかない。結果こそ全てなのです。浜のかあちゃんは強いのです。

さて海ばかり見て来た漁師が、ふと頭をあげて周りを見わたすと、今まであった、造船所、船具店、鉄工所、風呂屋、魚屋、八百屋が無くなってスーパーマーケットが出来ていました。

今浦島です。

それでも、海の水は塩辛く、日は西に沈んで北西の風が吹き荒れます。

日曜朝市（育波浦漁業）
淡路市育波　育波漁港
荷捌き所内

開催時間
第2・第4日曜日
8時から
アクセス
神戸淡路鳴門自動車道北淡IC（高速バス停あり）から車で約5分

祝　津名高校同窓会阪神支部報第十五号発刊
津名高校同窓会東京支部会員
岩井吉人（高十二回生）
〒350-1141　埼玉県川越市寺尾六四一三
TEL（〇四九）二四一八三三

株式会社　田中不動産
代表取締役　田中種義（高十三回生）
〒569-0081　高槻市宮野町十二番十六号
TEL〇七二一六七五一九二三番（代）
FAX〇七二一六七五一九二三番

コメルシオ・コクボ
真珠輸出・卸
小久保澄夫（高十三回生）
〒657-0011　神戸市灘区鶴甲二丁目十一番一四一四〇二
TEL（〇七八）八四二一〇四二五

祝創立九十周年
高校十三回
有志一同

祝創立九十周年
高校十三回
有志一同

南正光（高十四回生）

淡路市長
門康彦（高十五回生）
〒656-2131　淡路市志筑一四三八一一
電話（〇七九九）六二一五一一一
FAX（〇七九九）六四一二五〇〇

中野淑郎（高十五回生）

ありがとう津名高校

旧職員
浜田香里
（旧姓　延安）
（一九八八・四～一九九二・三在職）

一九八八年春、大学を卒業したばかりの私は、緊張と不安いっぱいで新任英語教師として、津名高校に赴任しました。職員室では、母校洲本高校でお世話になった恩師の先生方とも机を並べ、安心するやら恥ずかしいやら複雑な心境で教師生活をスタートしました。

同じ淡路島の高校とはいえ、当時の津名高校は校則がとても厳しく、自由な洲本高校出身の私はかなり戸惑いました。毎月体育館で頭髪服装検査があり、頭髪・つめ・ソックスのチェックをし、女子は髪を伸ばすことも禁止されていたと思います。補助かばんの形や生地まで決められていました。生徒達と五～七歳ぐらいしか変わらないのに、教師の立場でえらそうなことを言っていたと思います。あまりにも厳しすぎる校則に、一度職員会議で反対の意見を言ったことがありました。新米教師が生意気なことを言って、校長先生にすぐ怒られたように思いますが、会議後、先輩の先生方が慰めて下さったことを覚えています。

二年目からは一年生の担任を持たせて頂きましたが、本当に頼りない新米教師で、担当したホームクラスや授業の皆さんには、今は申し訳ない気持ちでいっぱいです。どんな事を教えていたのか、恥ずかしくて思い出せないくらいです。英語の授業では、ALTという外国語指導助手が派遣される事業がスタートしたばかりの頃で、日々教材研究に追われていました。いくら準備をしても満足のいく授業などできず、「教師には向いていないのかなぁ」と思い悩む日々でした。また、クラスの生徒指導でもいろんなことが起こり、津名郡の端から端まで家庭訪問に行きました。その時も、同じ学年団の先生方がサポートして下さり、暖かく見守って下さいました。家庭訪問に行くと、生徒の別の面が見られ、勉強になりました。淡路島の中でも私の知らない場所がたくさんあり、津名高の生徒たちはこんなに遠い所から自転車やバスで通学して、本当にえらいなあ、根性があるなあと感心したものです。

同じ学年を一年生、二年生と担任し、三年生では家政科の担任をさせて頂くことになりました。この家政科は、長い歴史の中での最後の学年だったのです。今から思えば、そのような大事な学年はベテランの先生や家庭科の先生が受け持つべきだったと思いますが、当時の私は何も考えず、担任したいという気持ちだけでした。女子ばかりの明るいクラスは、こんな新任も優しく受け入れてくれました。家政科の生徒たちは、勉強に加えて、調理実習に被服の課題、ホームプロジェクト等の大きな発表会や行事を、次々に立派にこなし、すばらしい最後の学年でした。当時のアルバムをめくると、体育祭のグラウンドで三－七の立て看板をバックに、各自が縫った浴衣を着たクラス写真があります。教師生活の中でも、一番思い出に残るクラスです。

生徒の卒業と同時に、私も結婚し、伊丹北高校へ転勤しました。子供を二人出産し、その後、西宮市立西宮高校（夏の甲子園のプラカードを持つ学校です）へ異動し、現在も勤務しています。教師生活も二十年を超えましたが、いまだに頼りなく、仕事と家庭の両立に追われ、日々はたばたと過ごしています。そんな時、去年の秋、津名高校家政科の卒業生から突然、電話がかかってきました。卒業後は就職して結婚し、三人の小学生の子育て真最中の彼女です。「先生、昔の夢を思い出して、看護学校を受けようと思うんだけど・・」とのこと。年齢はもう三十代半ばになっている彼女が、今から学生になろうというチャレンジ精神に、驚くと同時にこちらまで勇気を与えられました。奮起して、一から問題集で勉強をし、なんと今春、希望の看護学校に合格して、ママさん学生になったそうです。卒業生が活躍する姿ほど教師としてうれしいことはありません。心から応援したいと思います。

今回、機会を頂いたことで、津名高校での新任時代のことを懐かしく思い出しました。蔵王スキー修学旅行、強歩大会で生徒と歩いた津名の尾根、卓球部で行った豊岡の県大会、女子バレー部、陸上部、結婚式にも来てくれた生徒達、ブーケや式場の花を作ってくれた卒業生。津名の真面目で優しい生徒達と、若い新米教師の私をいつも暖かく見守ってくださった先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。今までこうやって教師を続けてこられたのも、津名高校での出発点があったからだと、あらためて痛感しています。ありがとう、津名高校。

淡路市の近況報告

淡路市長
門康彦
（高校十五回生）

五町が合併してから、五年が過ぎました。懸念されていました財政課題も、指標上は他市並みになりました。十年の期限の内、残り五年間で身の丈に合った持続可能な財政の構築を図っていきます。

さて、目新しく動き出しているものと言えば、西海岸では、貴船の日本でも有数の模型飛行機場。イベントの時などは、地元の人も即売などでコラボレイトしています。そして、何処まで解明されるか夢の有る五斗長（ごさいと）の垣内（かいと）遺跡。今、徐々にその姿を見せ始めています。

また、一宮では多賀に中学校の体育館が完成し、これで五つの中学校が、平等に体育行事が開催出来るようになりました。

山頂部分では、花さじき周辺の風車。島のエコエネルギーのシンボルとして計画が進められています。

東海岸では、岩屋港などで、明石海峡活性化プランの整備が進行しています。

また、津名の埋立地の市庁舎周辺に、防災センターと給食センターとを併設した市民交流センターが開設しました。その周辺には、メガワットソーラー施設の建設が始まります。

周辺の公共施設の一年間の約半分の電気を賄い、土日の使用量の少ない時は、売電します。

電気スタンドも設置して、電機自動車に注電もします。エコエネルギー、環境教育の拠点としても期待されています。

企業誘致では、既に七社が操業を始めています。特に、北淡東中学校の跡地に誘致した山本光学では、高校生五人が新規採用されました。そして、花博跡地、間伯（はざく）建設等の土取り跡地にも、色々な照会が有ります。将来を見越した企業の誘致を模索しています。

淡路市のこれからのコンセプトは、「世界的観光立島・淡路市」です。

今が未来の扉を拓くという視点から各種施策の展開をしていますが、特に今年の狙いは、諸外国との交流。中国浙江省義烏市との小商品シティー構想、韓国南海郡との島サミット構想など企業誘致も想定にいれた展開です。

そして、「ふるさと納税一億円作戦」です。これまで、件数、金額で総合県内一位の実績を踏まえ、町内会等にも協力を求め、集まった浄財は地元に還元する方式で、有志からふるさとに心を届けてもらう壮大な作戦を通じて、故郷を再生しようとするものです。

皆様のご協力をお願いいたします。

さて、母校、津名高校は、九〇周年を迎えようとしています。阪神支部の活動が、その後押しをすることを祈念しまして、報告とさせていただきます。

平成22年・23年度
兵庫県立津名高等学校同窓会
阪神支部役員（案）

事務局
〒657－0011　神戸市灘区鶴甲2丁目11六甲台ハウス4－402
小久保　澄夫　方
兵庫県立津名高等学校同窓会阪神支部
TEL　078－842－0425　　FAX　078－842－0425

	卒回	氏名
顧問	3	筆谷　正
	5	立花　和也
	7	薄木　昌信
支部長	13	小久保　澄夫
副支部長	9	沖　正典
	10	柴生　進
	13	五熊　詔一
	13	田中　種義
	14	南　正光
	15	中野　淑郎
	15	佐藤　正文
	16	東田　雅俊
	27	藤木　啓彰
会計	14	南　正光
会計監事	19	花野　正悦
	19	山本　和寛
幹事	3	森口　文子
	4	中須賀　允彦
	4	矢野　靖
	4	石戸　泰子
	4	中村　貞子
	5	江本　嘉代子
	5	河合　春子
	5	坂東　章好
	6	大田　均
	6	坂東　洋治
	6	保宗　幸夫
	6	尾崎　鶴子
	6	森多　貴美子
	6	石原　富子
	7	中谷　博文
	7	明角　清重
	7	矢野　端
	7	南光　三雄
	7	橋形　月代
	7	北小路　和子

	卒回	氏名
幹事	8	後藤　拓代
	9	平岡　英忠
	9	上　雅子
	10	道下　賀子
	11	山崎　義雄
	13	北野　佳代子
	13	石上　勝美
	13	石田　きさ代子
	13	梁瀬　資和子
	13	池本　和房子
	13	桜本　昭代子
	13	藁田　賀代
	14	桑名　康彦
	15	門　映子
	15	北川　佐代子
	15	上田　文孝
	15	砂川　雅文
	15	片平　敏子
	16	山本　俊博
	16	岩中　晴繁
	17	中田　承示
	18	柳谷　実季子
	18	杉岡　章次
	18	森　力
	19	田井地　穂
	19	高田　と
	20	今岡　ひ雄
	20	村上　正子
	21	木下　弘子
	21	橋口　芳子
	21	辻野　由里子
	21	梶畠　賀敬
	23	奥田　正博
	23	池田　幸三
	27	藤森　泰宏

（以上　70名　　平成22年６月20日現在）
平成22年８月29日開催の阪神支部総会にて選出決議の予定）

佐藤正文
（高十五回生）

北川映子
（高十五回生）
〒651-1321 神戸市北区有野台四－一〇－一
TEL ○七八－九八二－三二一八
FAX ○七八－九八二－三二一八

祝創立九十周年
高校十五回
有志一同

医療法人　大隈病院
内科医　山本直人
（高十六回生）
〒665-0063 宝塚市仁川高丸1の9の6
TEL/FAX ○七九八－五三－五六八二

高校時代よりも青春しているかも

早川　千代子
（旧姓　田中）
（高校十五回生）

津名高校に合格はしたけれど、ボックススカートで黒の制服が嫌で、紺色のまわりひざのスカートを作ってもらい、冬は禁止されているズボンが私の制服でした。予鈴のベルの音を聞いて家を飛び出し、途中で一緒になる現市長の門君と走って学校に通っていました。

勉強が嫌で就職コースに入り、商業簿記を採りました。商業簿記は、家計簿や自治会の会計役など実生活でとても役立っています。高一の国語テストでは平均点三十二点のところ三十四点で赤点でした。父親には「ツートンカラーの成績表は初めて見た」と言われ、職員室では「お前の兄さんのことは良く知っているけど、下に行くほどアホやな」と言われるほどでした。

ある日の体育の授業で教育実習の先生が、逆立ちをするように言って来たので、「見本をみせて」と言ったら先生が失敗して、みんなでキャーと大笑いでした。

就職が決まらない為、大学受験をすることになり、先生には「あなたの成績ではどこの学校も受からない」と言われていました。二人の兄が洲本高校で使っている教科書を買って教えに来て、三ヶ月間特訓をしてくれました。その中の例題と解き方を覚えた問題が丸々出題され、物理は完璧でした。職員室で合格校を報告したら、受からないと言った先生が「私と同じ大学だ」と言っていました。

子供の手が離れ、五十七才位からパソコンメールを始めました。そこでローマ字を今になってやっと覚えました。国語が嫌いだったので、実はローマ字は知らないまま過ごしていたのです。メル友は、高校時代の同級生やスェーデンに住んでいる友達、市長の門君や親しい知人で七～八人います。日記のように毎日送っています。

三年前には従姉妹と二人でスェーデンの友達の所に十七日間滞在して、北欧の観光（広い公園を散歩、きれいな夕日や街の観賞、大きな観光船で一泊二日のクルージングなど）を楽しんで来ました。英語が分からなかったけれどデパートにも行きました。バスの座席が広くて高いのにびっくりです。外人はみんな大きくて足が長いから。

メールで漢字が間違っていると言われることが多かったので、漢検四級を毎日しています。国語嫌いの私が勉強とは信じられません。最近になって、楽器で音楽が弾けたら楽しいのではと思い、ハーモニカを習いに行き始めました。今、童謡など簡単な曲が少し吹ける様になりました。その他に、近所の主婦仲間と週に一回程度、遊び回っています。低料金なのにめっちゃいっぱい楽しんで、その上お釣りが返ってくる様な究極の工夫が自慢です。

大手術を受け幸運にも生還した私。大量の薬を手放せない日々ですが、同窓会には、体力のある内に皆と楽しみたいので、出来るだけ出席しています。私の参加率一〇〇％！同級生との会合はどれも楽しいものばかりです。十五回生の合い言葉「いつまでも　若く元気で美しく」をモットーに笑って楽しく生きていきたいです。

奥羽周遊短歌紀行
2009・5・23～27

山本　直人
（大隈病院内科勤務）
（高校十六回生）

毛越寺の　浄土庭園　森閑と　広大なりき
栄華しのびぬ

平泉　金色堂に　み仏は　静にたたずむ
いにしえのまま

水と岩の　自然のアート　厳美渓の
みどりのなかに　我を忘れぬ

さみどりの　猊鼻渓にぞ　光さす　下り船頭の
馬追い歌よ

いちのせき　猊鼻渓へて　盛岡へ　三陸の旅は
各停の旅

人知れず　藤の花穂は　美を競う
ドラゴンレイルの　春は藤色

縄文の　史観をみごと　覆す　三内丸山の
巨大集落

高殿や　巨大建築ありしとふ　三内丸山
縄文の驚異

幼子を　甕に収めて　葬りし　縄文人の
思い優しき

竪穴の　住居の中は　暗かりき　縄文人の
暮らししのびぬ

千五百年の　時空を生きし　縄文の　集落のあと
父祖のあしあと

奥入瀬の　みどりに映ゆる　やまつつじ
頬紅赤き　乙女にも似て

早みどりの　若葉にもゆる　奥入瀬の
せせらぎの音　五感にしみる

奥入瀬を　歩き疲れて　一休み　キバナノスミレ
岩間に見ゆる

見上げれば　北斗七星またたきぬ　青荷の露天
湯のあたたかし

暗がりに　ランプの明かり　灯されて　青荷温泉
夜は更けゆく

ミソサザエ　さえずる朝に　瀬音聴く　青荷温泉
はるかなる宿

空青し　睡蓮沼の　彼方には　八甲田の峰
聳え雄々しき

峰々に　残雪白く　輝いて
早みどりあふる　八甲田の春

目の前に　主峰そびゆる　津軽富士　溶岩の壁
人をこばめり

ミネザクラ　けなげに咲きて　芳しき
かおり放ちぬ　津軽の富士に

肥料なき　山いただきに　花香る
峰の桜の　心学ばん

津軽富士　いただき近き　眺めには　十三湖あり
歴史をひめし

大きなる　津軽ねぶたの　武者絵には
絵師の意気地の　凄みをみたり

夕日赤く　日本海に　沈めるを　不老不死とふ
湯宿に見たり

白神の　森のみずうみ　ひそかなり　青池の青
きわだちて謎

風待ちの　深浦港に　荷上がりし
江戸の古伊万里　往時を伝う

ととせ昔　津軽に会いし　古き友
古伊万里のこし　鬼籍に入らる

（元深浦町立診療所長の故山崎敬次氏は古伊万里コレクションを町に寄贈）

秋田には　竿灯祭り　似合うべし　稲穂実りの
願いこもれり

はるかなる　東北びとの　やさしさよ
広き大地と　空のたまもの

こころこもる　奥羽の旅を　プロデュース
盛岡の友　終生の友

奥羽地方周遊の順路

5・23　伊丹空港－花巻空港－平泉－厳美渓（いつくし園泊まり）
5・24　厳美渓－一関－猊鼻渓－気仙沼－盛（さかり）－三陸鉄道－釜石－盛岡（猊鼻渓から盛岡まで約8時間）千村家泊まり
5・25　盛岡－三内丸山遺跡－蔦温泉（昼食）－奥入瀬－十和田湖－青荷温泉泊まり
5・26　青荷温泉－弘前城－津軽ねぶた村－睡蓮沼（八甲田山眺望）－津軽富士（岩木山）－深浦町立風待ち館－不老不死温泉泊まり
5・27　不老不死温泉－白神山地十二湖－秋田市民俗芸能伝承館－花巻空港－伊丹

異国で触れた『おもてなし』の心

藤井　まゆみ
（高校二十五回生）

暖かな四月中旬、ミラノのブランド街は多くの中国人女性が闊歩していました。経済大国が日本から中国に変わったなぁと実感しながら、ウインドウショッピングを楽しんでいました。娘に頼まれたバッグを探して、やっと見つけた店で『三色あるけど、どの色がいい？』と携帯で日本に電話を掛けました。『バッグはいいから、そんなことより火山が噴火しているけど帰れるの？』と、娘はとても心配していました。しかしその時主人と私はまだ何も知らず『噴火？大丈夫よ！お天気もいいし』と暢気なものでした。

今回の旅行はイタリアの家具展示会とオーストリアの工場見学を目的としたツアーでした。

家具製造業を営む私たちは夫婦で20名程のツアーに参加していました。翌朝ミラノを出発して帰国する予定でしたが、実はその時すでに二日前から空港は閉鎖されていたのです。翌日の早朝、ホテルのロビーで旅行を企画した仕入先D社の七〇代の会長さんから『今日は出発できません。いつ飛行機が飛ぶかという保証もありません。飛行機のキャンセルと新たな予約・ホテルの手配などスタッフが責任もってやりますので、皆さんはその間、近くを観光して下さい。費用は私どもが全て持ちます。』という説明がありました。

それからの数日間、飛行機の予約は二度取り直され、最終的には四日後のスイス航空で帰国することが出来ました。他のツアーに比べて最速の帰国だったと思います。予定外の滞在のため深夜日本の会社と仕事の打合せをし、昼間は観光するという日々でした。不安や焦りはありましたが、もし自分が招待するD社の立場だったらどんなに大変だったかと…。

会長はじめ主要な幹部四名が帰国できず、費用も一日延びるごとに大変な金額が加算されていき、それ以上に全員無事に帰国させねばという責任感は並大抵でなかったと思います。

思えば、この旅行は『おもてなし』に満ちた旅行でした。オーストリアの家具部品の世界トップメーカーB社は工場見学に世界中の顧客を招待しており、そのあたたかい歓迎ぶりは美しい山々の景色以上に心に残るものでした。また日本の代理店である仕入先D社も予定のスケジュールはもちろんですが、今回のように何十年に一度の大ハプニングにも迅速・冷静・親切に対処してくれました。おかげで参加者は誰一人パニックにならず、反対に絆が深まり忘れがたい旅となりました。空港で路頭に迷う旅行客が日本で放映されている時、実は私たちはドイツの古城やアルプスの避暑地の湖畔でのんびりしていたのです。

海外からの安い家具の流入で日本の家具メーカーの多くは淘汰されていきました。生き残るのに必死で、いつしか自分の心はギスギスして人に対する優しさを失っていきました。

しかし今回、異国で触れた『おもてなし』に心が洗われるようでした。今度は私が何人に『おもてなし』出来るだろうか。ボランティアというより、自分も楽しみながら等身大で出来ることはないか、旅の余韻に浸りながらこれからの人生を再考しているところです。

東田　雅俊
（高十六回生）

税理士　花野　正悦
（高十九回生）
〒652-0804
神戸市兵庫区塚本通七－一－十四
TEL（〇七八）五七八－五三三五
FAX（〇七八）五七七－二三一八

大切な人のもしものときに
（株）片山葬祭
片山　悟（高二十九回生）
〒656-1601
兵庫県淡路市黒谷一四八二番地
TEL（〇七九九）八四－一二二二
FAX（〇七九九）八四－一八三二

新シリーズ　第三回　あの頃をかえりみる

五十年前を回顧して

岩井　吉人
（高校十二回生）

津名高校を卒業して四十九年が経ちますが、本紙十三号（二年前）から始まったペンリレー『元、生徒会長時代の回顧録』の寄稿依頼が早早と私に廻ってきました。

とにかく半世紀も前のことであり、おぼろげな記憶（もう惚けが始まったかな？と思う今日此頃）を辿ってペンを走らせてみることにします。

勉学面に関しては、敢えて特筆することはないので、主として生徒会活動を通じて、思い出して記すことを、ご容赦願います。

二期連続生徒会長に！

一回目の立候補は、二年生（昭和三十四年）の十一月、三十四年度後期生徒会長選挙で、同期のO君とK君の強い推薦（実は煽てられたかな？あとになって気付く）によるものだった。立候補したところ予想もしなかったほど、高得票で当選してしまった記憶が残っている。

会長になったものの、立候補届締め切りの前日に、立候補することとなった故に、マニフェストも作らず白紙の状態だった。

しかし、副会長の橋本・広田両君の助言等により会長として無事スタートすることができた。

二回目は、三年生（昭和三十五年）の七月、前回の会長時に実践したかった事が未充足だったため、三十五年度前期生徒会長選挙に再び立候補し再選、二期連続で会長を務めることとなった。当時の生徒会役員選挙は年二回でしたが、二期連続の会長は、宮岡さん（七回生）以来と記憶している。

結果として、私の場合会長の任期が半年では短く、一年務めてやっと公約した事項が完遂できたのではと、当時自負したと思う。

初の淡路島内生徒会長懇談会を開催

会長に就任して二ヶ月位経過した頃、生徒会担当のある先生に、「島内の生徒会長の情報交換のため懇談会を行いたい」旨を申し出たが、担当の先生は安保問題への参画、全学連との関わり等を懸念され、応諾が得られなかった。しかしこの情報交換会の目的は、生徒の風紀問題・クラブ活動の予算関係・学校祭の内容等についてのみであり、危惧されている方向にはいかないことをねばり強く主張し、校長か教頭かいずれだったかにようやく開催の応諾を得た。

その翌々月頃、三原・洲本・洲本実業、三校の同意を得られ、三原高校において、四校による懇談会を開催するに至った。

本会を行なった成果としては、本校生は風紀面は長髪の点を除けば、他校より優秀である感を持った。しかしクラブ活動の予算額については、本校は四校中、一番貧弱であったと記憶している。また予算編成（審議）の進め方については、多くの点で他校のやり方が参考になった。（今思うにこの頃から津名高校はお金がなかったのかな？と改めて確信する次第である）。

以降本校のクラブ活動の予算は、今でいう事業仕分け的に各クラブと個別に面談し使用内容を開き、予算配分の決定を行なう審議方式を採用。また学校祭の相互見学も行なっていくことを申し合わせた。

生徒のみでの野外キャンプ講習会参加について

三年生（昭和三十五年）の夏休み、引率の先生と、私を含め男子二名、女子二名で西脇市での兵庫県青少年キャンプ講習会に参加することとなっていた。しかし直前になって引率の先生が急病の為、「今回のキャンプ参加はとりやめ」と言われたことにつき、この時校長か教頭に参加の要請をし、参加の応諾を得たことも印象に残っている一つです。

この講習会への参加が、のちの社会人になって企業の組合学校（若人による野外活動）等でのリーダー役として、非常に役立ったことを思い出します。

完全就職

十二回卒（昭和三十六年卒）の就職は、早々と全員決定した。これは諸先輩の、就職先の企業での好評価と、当時の就職担当である、桃井・東両先生の企業開拓活動の結果だったと、今でも同期生の会話の中で、感謝の言葉が出ます。

この頃から特徴として、就職試験で面接が重要視され始めてきたのではなかったかと思う。（私の様な筆記試験が苦手とする者にとっては追い風だったかな？

因みに、この頃の初任給は平均二万円位だったかな。

以上、五十年前を思い出し記述いたしましたが、総じて私の津名高生時代は、生徒会活動をはじめ弁論部・陸上競技部の活動に明け暮れ、北淡町から一時間余りの自転車通学のせいか、勉強は疎かだったかなと改めて思い起こします。また当時の先生を非常に困らせた生徒だったんだなと本文を書いているうちに痛感している所存です。

しかし、この高校時代の経験が、その後社会人となった時、また今でも私個人の生活への財産となりましたことを、恩師、諸先輩、同期の方々に感謝の意を表しつつペンを置き、次号の執筆者のかたにバトンタッチいたします。

長文におつき合いいただきありがとうございました。

〔追記〕

私、昨年十一月末、長年住み慣れた神戸から埼玉県川越市に転居いたしました。

阪神支部在籍中は大変お世話になりましたことを本紙をお借りし、厚く御礼申し上げます。

東京支部の動き

さて、今度は東京支部在籍者として、同窓会東京支部発展のための一助となるよう頑張る所存です。

つきましては、先般、現東京支部長と連絡をとり、今後の東京支部の在り方・進め方等について有志を募り、「お話をする機会を作りましょう」と呼びかけましたところ、十六名の方々にお集りいただきました。その席上、「現在関東地区在住者約四五〇名の方々に、取り敢えず『懇親会の開催のご案内』を出状しよう」との意見が全員一致でまとまりました。

微力ではありますが、阪神支部の経験を生かして、東京支部会員相互の親睦を図れるよう努めますので、今後とも御支援の程よろしくお願い申し上げます。

当時の生徒会役員　後列　左から６番目が岩井さん

「世界的観光立島・淡路市」をめざして

山田　一夫
（淡路市市役所企画部企画課）

淡路市は、平成十七年四月一日に旧津名町、旧一宮町、旧北淡町、旧淡路町、旧東浦町が合併し、新市としてスタートしましたが、合併直後から大きな課題に直面しました。旧五町とも、阪神淡路大震災の復旧、復興を成し遂げていただけに、その代償として多額の借入金も抱えていました。そのため、極めて厳しい財政状態で出発し、以後の五年間は、財政再建を最重点課題として、市民の協力を得ながら公共施設の見直し、市職員数の削減など徹底した行財政改革を実行してきました。その結果、現在では、厳しい状態に変わりない中、財政計画にわずかながらも光が見えつつあります。

そして、合併から五年を迎え、新生淡路市の創造に向けて本格的に動き始めました。市は、島の北部にあって、明石海峡大橋で阪神間と直結されるという高いポテンシャル・可能性を備えています。この魅力と可能性を最大限に発揮できるよう平成二十一年度から「世界的観光立島・淡路市」の創造を重点目標に掲げ、「観光」「環境」「産業」「歴史文化」の四つをキーワードとして、施策を展開しています。

その関連で、最近、注目されている事例を二点ほど紹介させていただきます。

まず、歴史文化においては、北淡黒谷五斗長地区で発見され、平成二十一年一月二十三日に全国紙の一面に取り上げられた五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡があります。この遺跡は、弥生時代後期（一～二世紀）の鉄器鍛冶工房跡で、工房の数や規模の点で、わが国最大級の遺跡として多くの注目を集めています。同年一月に開催した現地説明会には、遠くは埼玉、福岡県などから九〇〇人が現地を訪れたほどです。学術的にも、鉄が権力の象徴であり、極めて貴重な物資として位置づけられる時代のものであるため、歴史上重要な遺跡として位置づけられ、文化遺産として国の史跡指定も予定されています。市が擁する古代ロマンにできるだけ多くの人が関心をよせていただくことを期待しています。

また、環境関連では、平成二十二年度に、市役所北側にある1.5ヘクタールの敷地に兵庫県と一体となってメガワット（一、〇〇〇キロワット）級の太陽光発電施設を建設する予定です。完成すると自治体の施設としては、関西最大の規模となります。太陽光パネルは、年間約一〇〇万キロワットアワーの発電を見込み、発電した電気は、市役所本庁舎を含め周辺の三施設へ送電します。年間一〇〇〇万円の電気代の削減、三〇〇トンの二酸化炭素（CO2）の削減が見込め、クリーンな淡路市づくりのシンボルともなります。

以上、夢を感じるような話題がある反面、現実の大きな問題として、過疎、少子化が顕著で深刻な事態となっています。合併時には五一、八八四人であった人口が、今では四八、八〇〇人（H二十二・三・三十一現在）、と毎年六〇〇人程度の減少が続いており、何とか、この減少傾向に歯止めをかける事が緊急の課題となっています。

幸い淡路市は、美しい自然環境に囲まれ、新鮮な海産物、野菜も豊富で、明石海峡大橋で都市と直結しているという極めて贅沢な居住空間です。この「暮らしの適地、淡路市」の魅力をPRし、新たな定住者を誘っています。一旦ふるさとを離れた方々にも、もう一度淡路市の魅力を再考してみてほしいものです。

どうか、ふるさと淡路市を応援してください

ふるさと納税制度は、自分のふるさとや応援したい自治体に寄付すると、寄付額に応じて翌年度の個人住民税などが軽減される制度で、ふるさとに貢献したいという気持ちを形にできる制度です。

淡路市のように、市外へ移り住む人の多い自治体にとっては、多くの方々からの善意で元気を分けていただくチャンスと考え、PR活動を行い、平成20年度から通算して八二五人の方々から四、二〇三万円のご厚意を寄せていただきました。ふるさとを思ってくださる方々の多さに感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんからいただいた寄付金をもとに行ったふるさと景観整備事業（地域のシンボルとなる桜等名所づくり事業や保育所、小学校統廃合記念植樹事業など）では、市内に四一〇本の桜を植樹。市内各地で、お寄せいただいた元気のつぼみが、春に可憐な花を咲かせました。

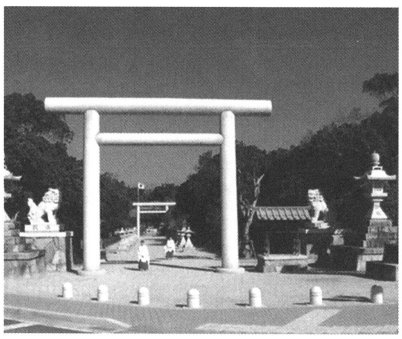
今年度は、新たに、町内会地域活性化事業として、寄付金を地域に直接還元することも検討しています。

人と人が協力しあってこそ、いろいろなことを積み上げられ、明日に向かうことができます。

ふるさと淡路市に暮らす若者たち、校歌の中に歌われている「人となる日をいま待つ我ら」の後輩たちが、未来に明るい夢を描けるよう、一人でも多くの方々から元気を分けていただき、淡路市の取り組みを応援していただければと思います。

子午線（東経一三五度）と太陽の通る道（北緯三十四度三十二分）の交わる日本で唯一のまちであり、「国生み神話」など豊かな歴史文化が息づくまち。煌めく陽光、澄んだ空気、吹き抜ける風、人々の笑顔は、淡路市の誇りです。

いつまでもみなさんのふるさととして、世界的観光立島の夢を求め、輝けるまちづくり、美しい淡路市への未来を創造しますので、みなさんの応援をよろしくお願いします。



日本の国生　いざな神宮

七期同窓会開催のご案内

古希を過ぎて、月日の速さが加速して来た様に感ずるのと併せ健康面で体の各部品に変調が生じ、体調不良者の話を耳にする事が多くなって来ました。皆様お変りありませんか？

保健に関する話題を中心に、情報交換、定期診断を左記の通り実施いたしますのでご案内致します。詳細は追って通知致します。

日時　平成二十二年十月六日（水）
十一時三十分受付開始
今回は支部総会の日と異り行います
十二時～十四時三十分

場所　パレス神戸（前回と同場所）
神戸市中央区下山手通5－1－16
TEL　〇七八（三七一）七八〇〇

会費　六〇〇〇円
世話役代表　宮岡郁雄
TEL　〇七八（九一四）〇四二七

第14回卒業生同窓会開催のご案内

二年毎に開催されている第14回卒業生同窓会を次の要領で開催いたしますので、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加いただきたくご案内いたします。

記

日時　平成22年10月17日（日）
午後12時から
受付　午前11時30分から

場所　シーサイドホテル舞子ビラ
神戸市垂水区東舞子18-11
TEL　〇七八（七〇六）三七一一

会費　一〇、〇〇〇円

ご案内の発送　平成22年9月上旬に「第14回卒業生同窓会開催のご案内」を各同窓生宛に送付いたします。

第14回卒業生同窓会開催準備委員代表
〒630－0122　生駒市真弓3－1－18
TEL　〇七四三（七九）二七五五　静山　純一
同　事務局担当
〒563－0029　池田市五月丘3－1－4
TEL　〇七二（七五三）一四五八　南　正光

第15回生出会って50年、故郷・旧友のよいとこ再発見の同窓会のご案内

15回生幹事一同
中野淑郎、北川映子、佐藤正文

15回生の皆様、お元気ですか？　退職され、子供の巣立ち・親の介護・地域の世話など、お忙しい日々と思います。「還暦を祝う会」から早5年、「高校入学」から50年が経ちました。この間、残念ながら亡くなった友もいます。卒業以来ご無沙汰している友、気がつけば疎遠になっている友と再会し、ゆっくり旧交を温めませんか？

淡路市を貸切バスで巡りながら昔話に華を咲かせ、半世紀を経た故郷や、高校時代は話した事もなかった友の良さを再発見して、同窓の縁を大いに楽しみたいと思います。

人生の荒波や辛苦を経て、今、生きている事に感謝している私たち。一人でも多くの友に出会いたいです。車椅子だからと遠慮は不要で、皆で援助し合いますので是非ご参加ください。島内の友は途中から、多忙な友は参加できる個所だけでも懐かしい顔を出してくだされば有難いです。詳細は、後日、全員に、郵便はがきにて案内いたします。

記

概略

日時　平成22年9月15日（水）

行程　神戸三ノ宮（8：30）、フェリー、（県立淡路島公園）、あわじ花さじき、本福寺（水御堂）、昼食、工場見学（薫寿堂）、ボールパーク淡路、いざなぎ神宮、（北淡震災記念公園）、明石大橋、神戸三ノ宮（18：50）

費用　神戸三ノ宮から参加
10000円程（昼食を含む）
島内から参加
9000円以下
（参加個所によって変わる）
宿泊希望者は宿を準備しています。
＋15000円（宴会を含む）です。

津名高校創立90周年記念式典参加バスツアー案内

我が母校は今年創立90周年を迎え盛大な記念式典が行われます。会場のしづかホールではＮＨＫ交響楽団室内合奏団による演奏などが行われます。この機会に気の合う同窓生をお誘いあわせの上、多数の参加をお待ちしております。

1．集合日時　平成22年10月10日（日）　午前8：45分（時間厳守）
2．集合場所　湊川（楠公）神社前　JR神戸駅下車北へ200m
3．参 加 費　¥5000（昼食付）当日払い
4．参加申込　同封のはがき又は電話・FAXにて下記までお申込み下さい。
※締切は9月末日まで。先着40名様で締め切らせていただきます。

〒569-0081　高槻市宮野町12－16
田中不動産内
田中種義宛
電話 0726－75－9131　FAX 0726－75－9132

5．行程　神戸発9：00～あわじ花さじき～同窓会館又は津名ハイツで昼食～90周年記念式典会場（しづかホール）～帰路へ（18：00頃着を予定）

編集後記

平均年令七〇歳手前、これが阪神支部報のスタッフのいつわらざる姿である。

そんな中で今年も無事？に発行にこぎつけました。永年の酷使に耐えきれなくなった老体に鞭打ちながらの編集会議を毎回続けて十五号の誌面を同窓生のみなさまに届けることができます。たかが十五号、されど十五号の想いが脳裡をよぎる。

思えば津名高校も九〇周年、歴史の重みが沸々と感じられます。開けば巣立った卒業生は一万六千余名。今や日本中はおろか世界のどの地においても津名高ＯＢの足跡が残っていることでしょう。この秋十月十日の九〇周年記念式典では志筑新島の「しづかホール」で、式典と合わせてＮＨＫ交響楽団のコンサートの催しがもたれる。旧友と故郷と世界最高とも言えるＮ響の調べ。見事なとりあわせではないでしょうか。匿名の方から次のようなお手紙とお金を頂きました。

「毎年お世話になっております。一度も会費を払っておりませんでしたのでまとめて二万円送ります。今後共よろしく皆様健康に気をつけて活動して下さい」

原文のまま

いやありがたいことです。誠実さに感謝。なお、今号では五月に本部報が発行されましたので津名高だよりなど一部誌面を割愛させていただきます。

七面の記事、埼玉県の岩井吉人さん（一二回生）に東京支部でもさらなる活躍を期待します。

前同窓会長　小久保正雄さまのご冥福を祈ります。

それでは八月の支部総会と十月のバスツアーで再会できる日を待っています。

（田中　記）

編集委員（委員長）
田中　種義（13）
宮岡　郁雄（7）
薄木　昌信（7）
南光　三雄（7）
矢野　端（7）
五熊　詔一（13）
小久保澄夫（13）
石田きさ代（13）
梁瀬　資子（13）
南　正光（14）
北川　映子（15）
中野　淑郎（15）
佐藤　正文（15）
東田　雅俊（16）
※（　）は卒業回生です。

津名高等学校同窓会阪神支部
収支決算書
（平成20年6月11日から平成22年6月30日まで）

（単位：円）

収入の部 科目	金額	備考
前期繰越金	3,914,721	普通預金（三井住友）822,883 ゆうちょ銀行 3,086,252 現金 5,586
会費	1,012,000	通常会費
会費	825,000	創立90周年記念募金
会費	700,000	本部・阪神支部総会
会費	120,000	母校訪問
賛助広告費	430,000	同窓会新聞広告
本部補助金	400,000	
雑収入	46,519	役員等から
預金利息	2,961	三井住友銀行普通預金
合計	7,451,201	

支出の部 科目	金額	備考
印刷費	1,637,699	同窓会新聞　13号　14号
印刷費	53,318	タックラベル
印刷費	11,200	郵便振替用紙代
通信費	48,496	案内用切手、葉書代等
寄付金	200,000	母校　マンドリンクラブへ
支払報酬	100,000	薄木先生事務員へ事務手数料
宴会費	572,242	本部・阪神支部総会（神戸東急インへ支払い）
交通費	174,810	母校訪問費用（バス代等）
会議費	85,298	支部会、編集会議等
振込手数料	29,345	会費振込手数料等
次期繰越金	4,538,793	普通預金（三井住友）2,493,721 ゆうちょ 2,045,072
合計	7,451,201	

（注）本収支決算書は仮締めであり本決算においては一部数字が変更となります。